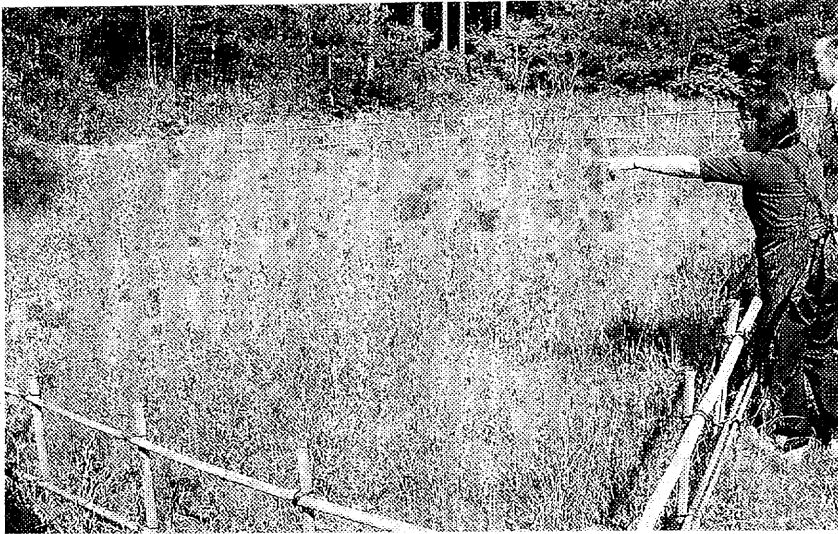


福井



サギ草の保護、増殖活動に取り組みメンバーら(武生市安養寺町で)

「日本の里地里山30」コンテスト

県から武生、さぎ草王国

人々の暮らしに密接なかかわりを持つ里地と里山の保全・維持に尽力する団体を募り、特に優れた三十団体を表彰する「日本の里地里山30」コンテスト(読売新聞社主催、環境省共催)で、県内からは、激減するサギ草の保護、増殖に地域ぐるみで取り組む武生市安養寺町の「さぎ草王国」代表(64)Ⅱが選ばれた。メンバーらは「地域の自然を見つめ直すこと、住民同士の交流が深まった。受賞を励みに、活動をいつまでも継続したい」と話している。十二日に読売新聞東京本社で表彰式がある。

サギ草は山野の湿地に自 安養寺地区では、北側の生するラン科の多年草で高 谷あい一点に点在していたが、さ約三十株。夏にサギの飛 周辺部の整備や野草愛好者ぶ姿に似た白い花を開く。の採取などで激減。これを

自生地清掃 保護に尽力

12日に表彰式

見かねた五十、六十歳代の住民らが呼びかけて二〇〇〇年一月に結成し、各家庭で株の増殖を始めた。現在、地区の全約百四十戸のうち、約八十五戸、二百人以上が参加。自生地の清掃、保護に保全活動に取り組み、メンバー以外でも八割以上の家庭が、庭先での栽培に協力している。

自生種は花持ちが長く、緑一色の葉は美しいが、品種改良された栽培用の品種に比べ、鉢植えでの栽培は難しいという。葉が巻いたり、黒斑が出たり、病気にもなりやすい。毎年三月から、花が終わる、翌年の準備をする十月まで、毎日、水や養分を与え、丹念に育てている。自生地にもほぼ毎日、足を運び、観察。

毎年八月の「サギ草展」では、展示や活動のPRをし、昨年は、県内外から約三千人が訪れた。

昨年は、子ども会や母親クラブと一緒に、地区内の道路沿いにヒマワリやコスモスの種まきをした。今年五月には、地区の子どもたちと「里地探検隊」活動をし、ゲンゴロウや国内最小のハッチョウトンボなども確認した。

代表は「国王」、住民は「国民」、活動費の年会費1000円は「国民税」と呼び、遊び心もある。

永当さんは「今後は、二十、三十歳代の若い世代にもっと参加してもらい、小中学校の自然学習の場としても積極的に活用してほしい」と期待している。